

東日本・西日本学生バドミントン選手権大会 組み合わせ基準

平成 30 年 2 月 25 日

全日本学生バドミントン連盟

東日本・西日本学生バドミントン選手権大会は、現行の公益財団法人日本バドミントン協会大会運営規程第 5 章第 28 条～32 条を適用し、シードは団体戦・個人戦それぞれ次の通りとする。

【団体戦の組み合わせ基準】

1. 次の①～③により、1～16 までシードする。

①前年度本大会のランキング 2 位以内をランキングによりシードする。

②前年度本大会のランキング 4 位以内、8 位以内をそれぞれ抽選によりシードする。

ただし、昨年度と同じ対戦は避けるものとする（4 シードと 8 シードの当たりもチェックする）。

※①・②でシードされていない、今年度各地区連盟主催大会の 1 位がある場合は、抽選により第 9～12 にシードする。（関西学連案）

➡これは③で解決できる。

③参加する地区学生連盟の出場校の内、直近の地区大会上位校を抽選により上位から 16 までシードする。

2. 以降自動抽選

★③については、参加校数の割合で各地区の抽選対象校数を算出し、それを基に抽選により各地区上位からシードする。

例：参加校数：関東 34、東北 4、北海道 10 校の場合、抽選対象校数比率「5：1：2」を基に抽選により各地区上位からシードする。

➡抽選対象校数（関東 5 校・東北 1 校・北海道 2 校；計 8 校の倍数）

★1 回戦は、昨年度と同一対戦は避ける。

★ブロック内での各地区バランスを考慮する。特に参加校数が少ない地区のバランスを優先的に考慮する。

【個人戦の組み合わせ基準】

1. 次の①～③により、1～32 までシードする。

①前年度本大会のランキング 2 位以内をランキングによりシードする。

②前年度本大会のランキング 4 位以内、8 位以内をそれぞれ抽選によりシードする。

③前年度全日本学生バドミントン選手権大会のランキング 2 位以内をランキングによりシードする。

- ④前年度全日本学生バドミントン選手権大会のランキング 4 位以内、8 位以内をそれぞれ抽選によりシードする。
- ⑤組み合わせ会議直近の日本ランキングの 32 位以内をランキングによりシードする。
- ⑥前年度本大会のランキング 16 位以内、32 位以内をそれぞれ抽選によりシードする。
- ⑦前年度全日本学生バドミントン選手権大会のランキング 16 位以内、32 位以内をそれぞれ抽選によりシードする。
- ⑧組み合わせ会議直近の日本ランキングの 64 位以内をランキングによりシードする。
- ⑨前年度本大会のランキング 64 位以内を抽選によりシードする。
ただし、種目の参加人数・参加組数が少ない場合は考慮しない。
- ⑩前年度全日本学生バドミントン選手権大会のランキング 64 位以内を抽選によりシードする。
- ⑪組み合わせ会議直近の日本ランキングの 128 位以内をランキングによりシードする。
- ⑫参加する地区学生連盟の選手の内、**直近の地区大会上位者**を抽選によりシードする。
- ⑬各地区内のランキングを考慮して各地区の中でのみ入替可能とする。

※全日本学連主催大会の前年度戦績を優先し、B8・B32・B64 で区切る

➡次に日本ランキングを B64・B128 で区切って、ランキング相当箇所へ挿入。

2. 以降自動抽選

★⑪までで 32 シードが埋まらない場合、⑫で各地区直近大会のベスト 8 を上位から抽選で入れていく。

➡抽選の地区割振り数は、団体戦同様参加者数から算出した割合による。

★⑫までで 32 シードまでが埋まらなかった場合は、そのまま「空き」にしておく。

★自動抽選の後、各地区のバランスを考慮して 32 シードまでを除いたそれ以外で動かすこともある。

★一回戦は、昨年度と同一対戦を避ける。

★シングルスにおいては、ダブルスのパートナーを等分に分けるのが原則であるが、事情によっては相異なる 1/8 に組み入れることまで認める。

- ## 3. 日本バドミントン協会の要請で各種大会に派遣される場合及びその他の特別な理由により、当該選手が上記シード基準①～⑬に適応されない場合は、そのシードについて考慮する場合がある。

以上

【組み合わせ会議の効率化】

※大会の主管学連は、組み合わせ会議当日までに組み合わせ原案「1

案：団体戦は16シード、個人戦は32シード」を準備する。

- ① 上記の基準に沿って「シード決」及び「シード下決」を行い、アサミ大会運営ソフトに入力を完了しておく。
- ② ダブルスパートナー分けを含めて、シード内での「組み合わせ検査」を完了しておく。
- ③ 原案作成手順を「説明資料」として添付する、特にシード内での変更が生じた場合は理由を明確に記載すること。

※最終案を基に自動抽選後の★印等を調整して組み合わせを確定する。

この際、上記基準以外のバランス（パワーバランス等）は極端な場合を除き、原則として調整はしない。

※抽選はコンピュータでランダム関数を使用してもカードやダイス等を使用しても数学的確率は同等である。

➡原案作成方法（ランダム関数 or カード）は主管学連の判断による。

※主催学連である全日本学連は、レフェリー等サイン入りの原本をコピーした副本を各地区学連に配布する。